

## 山の版画家、畦地梅太郎

今回は芸術の秋にちなんで、宇和島が生んだ唯一無二の「山の版画家」畦地梅太郎さんについて特集します。

「山男」シリーズをはじめ、特徴的な色使いと素朴であたたかみのある版画作品は、亡くなって20年以上になる今もお、国内外で多くの人たちを魅了し続けます。



# とぼとぼと歩んだ人生

今なおファンを生み続ける、  
心の中の「山男」

畦地梅太郎は、1902年に愛媛県北宇和郡二名村（現在の宇和島市三間町）で生まれました。

10代で上京して油絵を学び、やがて創作版画家として、全国の山々や心の中の「山男」をモチーフに独自の世界を創り上げます。生あるものすべてに愛を持って接した梅太郎の、どこか素朴であたたかみのある版画作品は、国内外の多くの人に高く評価され親しまれています。また、



山の家族（1975年）

その人柄から生まれた優しさともぬくもりのある随筆集も多くの愛読者を持っています。

1976年には日本版画協会名誉会員となり、1986年に三間町名誉町民に、1998年に町田市名誉市民になりました。そして1999年、96歳の生涯を閉じました。

自らの生涯を「とぼとぼ」と表現したように、地に足をつけて急ぐことなく積み重ねた画業と人生は、今もなおさまざまな分野で新たなファンを生み続けています。



冬山の顔（1961年）

梅太郎は抽象的な作品も多く残しています。1961年に制作された「冬山の顔」は御荘文化センター（愛南町）どん帳の原画にもなっています。



親子鳥（1955年）

平和な世界を求める山男として描かれた「親子鳥」は、コスモスホール三間どん帳の原画になっています。

16歳で故郷を離れた梅太郎ですが、愛媛の風景も数多く作品として残しています。



伊予の闘牛（1945年）



鶴島城（1936年）



石鎚山（1985年）愛媛県民文化会館ホールどん帳原画



# 畦地梅太郎の あゆみ

- 
- 1902年 12月28日 愛媛県北宇和郡二名村（現在の宇和島市三間町）に生まれる。  
1920年 上京。新聞配達・配送などの仕事をしながら正則英語学校に通う。  
1922年 画家になることを志して、日本美術学院油彩画の通信教育を受け始める。  
1926年 内閣印刷局に勤務中、鉛版による版画を試みる。  
1927年 日本創作版画協会展に初出品し、入選。内閣印刷局の仕事を辞め、先輩版画家の摺りの手伝いなどの仕事を手がける。  
1930年 第2回内国美術展で国際賞受賞。第11回帝展へ出品し入選を果たす。  
1932年 日本版画協会の会員となる。  
1933年 棟方志功・谷中安規ら8人と春秋会を結成。  
1936年 最初の自摺版画集「伊予風景」を発表。  
1937年 国画会第12回展での国画奨学賞受賞。  
1940年 結婚。国画会第15回展で2度目の国画奨学賞受賞。  
1952年 国画会秋季展に初めて山男像の作品を発表する。  
1953年 第2回サンパウロ・ビエンナーレに日本代表として出品。宇和島市立図書館が第1回畦地梅太郎版画展を開催。  
1955年 斎藤清・駒井哲郎らと現代版画5人展を開催。  
1956年 第4回スイス・ルガノ国際版画ビエンナーレに招待出品。  
1957年 第1回東京国際版画ビエンナーレ、スイス・シクロン国際木版画トリエンナーレ、第4回サンパウロ・ビエンナーレに出品。  
1962年 第3回東京国際版画ビエンナーレに招待出品。  
1965年 米国カリフォルニア州サンタマリア市で個展開催。  
1966年 スイス・ジュネーブの「日本現代版画」展に出品。  
1973年 「とぼとぼ50年 畦地梅太郎展」を愛媛県美術館で開催。  
1976年 日本版画協会名誉会員となる。母校二名小学校に顕彰碑建立。  
1985年 愛媛県教育文化賞受賞。愛媛新聞社賞受賞。  
1986年 三間町名誉町民となる。  
1988年 南海放送サンパーク美術館・畦地梅太郎記念美術館開館。  
1991年 町田市立国際版画美術館「畦地梅太郎版画展」開催。  
1993年 よんでん芸術文化賞受賞。  
1998年 東京都町田市名誉市民となる。  
1999年 南海放送サンパーク美術館「とぼとぼ96年 畦地梅太郎展」開催。  
4月12日 肺炎のため死去。  
2000年 サンパーク美術館が回顧展を開催。  
2001年 町田市立国際版画美術館「生誕百年記念畦地梅太郎展・山のよろこび」開催。  
2002年 サンパーク美術館「生誕百年記念展」開催。  
2003年 三間町に畦地梅太郎記念美術館開館。  
2009年 愛媛県美術館「畦地梅太郎展 山のいのち、人のぬくもり」、畦地梅太郎記念美術館「没後10年 畦地梅太郎展」開催。  
2019年 町田市立国際版画美術館「畦地梅太郎・わたしの山男展」、畦地梅太郎記念美術館「没後20年 あし跡展」開催。  
2020年 愛媛県美術館「没後20年 畦地梅太郎 山のなか 本のなか」開催。

# 畦地梅太郎記念美術館

道の駅みま併設の美術館。アトリエを完全再現したスペースなど見どころたくさん。美術館オリジナルグッズも販売しています。

畦地梅太郎記念美術館は、平成15年7月に三間町名誉町民である版画家 畦地梅太郎を顕彰するとともに、地域文化の振興を目的として建設されました。全国的にも珍しい、道の駅に併設された美術館となっています。

所蔵作品総数は約350点で、版画作品だけでなく、素描や原画、肉筆画、版画作品のもとになる版木なども多数所蔵しています。館内では、これらのほかに梅太郎のあゆみ（年表）や記念品、書物、版画制作の手順なども展示していて、年に約4回の展示替えを行っています。

館内は、木のおいが感じられる広々とした空間で、ゆっくりとした時間が流れています。東京都町田市にあった梅太郎の自宅アトリエの中を完璧に再現したスペースもあり、机の上に散らばるメモや手紙に至るまで、1つひとつ元通りに配置されています。そこでは、ふと今も梅太郎

本人が制作しているかのような雰囲気味わえます。またこのスペースでは、作品や本人をより知ることができる20分程の映像が流れていて、座ってゆっくりと観ることができます。

入館してすぐの場所には「梅太郎の庭」と称した中庭もあり、椅子に座ってほっと一息つけるスペースとなっています。グッズコーナーでは、さまざまな畦地グッズのほかに美術館オリジナルグッズも販売していて、畦地梅太郎の魅力にたっぷり浸かることができます。

## 畦地梅太郎記念美術館

【ところ】三間町務田180-1 (道の駅みま併設)  
【開館時間】午前9時～午後5時 (受付：午後4時30分まで)  
【休館日】火曜日 (祝日の場合は翌平日)、元旦  
【入場料】大人300円、高校生・大学生・65歳以上200円、中学生以下無料  
※そのほか割引あり。





ほっと一息ついてもらえる場所に  
(館長 石丸光計さん)

畦地梅太郎の最大の魅力は、その優しく飾らない人柄です。家族思いで、道具などもとても大切にされる。それが作品にも表れています。梅太郎は自身の人生を「とぼとぼ」と表現していますが、下を向くのではなくしっかりと前を向いて一歩一歩進んで行く力強さを感じます。ぜひ来館して、その魅力に触れてみてください。また館内では木版画体験も行っていますので、版画のおもしろさも体験してみてください。新型コロナウイルスの影響で不安な日々が続いていますが、作品や庭を眺めることでほっと一息つく時間を持つてもらえればと思います。



梅太郎写真撮影・早田清美

### 企画展開催中

### エッセイスト梅太郎

### 『版画と文章のコラボレーション』

梅太郎はエッセイストとしても温かな味わい深い文章で人気を集めました。版画と文章を1冊の本に収めた画文集も数多く出版しています。そこには、孫から聞いた話に自らの子ども時代を重ねてみるなど、家族思いの心優しい人柄が感じられます。

本展では、画文集の版画と文章を並べて展示したり、版画とその作品に関連のある随筆を組み合わせて展示したりすることで、版画と文章の両面から畦地作品を鑑賞してもらえようとしています。また、梅太郎自筆の原稿や書簡、年賀状も展示します。

優れたエッセイストとしての梅太郎の魅力をぜひ味わってください。

### エッセイスト梅太郎

『版画と文章のコラボレーション』



# 畦地梅太郎と町田

畦地梅太郎は1976年に東京都町田市に移り住み、名誉市民にもなっています。このことから、町田市には梅太郎ゆかりの場所が多くあります。

## あとりえ・う

### 自宅アトリエを改装した癒やしの空間

「あとりえ・う」は、山の版画家・畦地梅太郎の作品をゆつくりと楽しんでもほしいとの想いから、町田市にある畦地梅太郎のアトリエを改装して、2001年6月にオープンしました。

梅太郎が仕事に打ち込んだ静かな空間で、畦地梅太郎の作品を楽しむができます。

また、作品の展示・販売のほか、ポストカード、手ぬぐい、缶バッジ、レプリカなど各種グッズの販売を行っています。

※現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館中です。木版画作品（手刷り小版画を除く）の購入を検討している人を対象に、テレビ電話を使つての購入を行っています。

あとりえ



## 町田市立国際版画美術館

梅太郎作品を多数収める、自然と一体化した美術館

町田市立国際版画美術館は、1987年に国内では数少ない版画専門の美術館として、芹ヶ谷公園内（東京都町田市）に開館しました。

館内は、展示室のほかに版画工房とアトリエを備えていて、実技講座や公開制作などに利用されています。

8世紀から現代まで、日本と西洋の版画作品を広く収集・保存していて、収蔵数は3万点以上におよびます。畦地梅太郎の作品も多く収蔵されていて、常設展示や企画展なども行われています。





# 鶴川市民センター

## ホールどん帳原画制作

「あとりえ・う」から約1kmの場所にある鶴川市民センター。そのホールどん帳の原画「みどりさわやか」を畦地梅太郎が制作しました。愛媛県民文化会館ホールどん帳の原画「石鎚山」とならび最後の大作と言われています。

## 畦地梅太郎グッズあれこれ



畦地梅太郎の作品には版画や書籍だけでなく、ポストカードやしおり、手ぬぐい、缶バッジなどたくさんグッズがあります。畦地梅太郎記念美術館ではメモ帳やマスキングテープなどのオリジナルグッズも販売しています。アウトドアブランド「モンベル」とのコラボTシャツは大人気で、山に登れば誰かが着ているほどだそうです。この機会にいろいろなコレクションしてみたいかがですか。

## 近年、再注目を浴びる畦地梅太郎

亡くなって20年がたった今も新しさを感ずる作品たちは、デザインの分野でも注目を集めています。今年発行された、デザインの観点からまとめられた観光ガイド「design travel」愛媛号の表紙も、畦地梅太郎の作品「若者」が飾っています。また、宇和島市の新観光パンフレット「宇和島本」でも畦地梅太郎の特集ページを設けています。

年々ファンを増やし続ける畦地梅太郎。この秋は、その魅力にはまってみませんか。

